

低血糖処置に
グルカゴン注射用1単位「ILS」
を注射される方へ

His-
Ser-Gln-
Gly-Thr-Phe-
Thr-Ser-Asp-Tyr-
Ser-Lys-Tyr-Leu-Asp-
Ser-Arg-Arg-Ala-Gln-Asp-
Phe-Val-Gln-Trp-Leu-Met-Asn-Thr



■糖尿病の患者が意識を失うような強い低血糖症を起こしたとき、家族の方などがグルカゴンを注射します。低血糖症が起こっていることを本人が気づかなかったり、わからずに意識不明になることもあるので注意して下さい。

■低血糖症の処置法に十分注意して下さい。この注意は必ず家族やまわりの方にも知らせておいて下さい。

■注射の方法について、主治医の先生より指導を受けて下さい。

低血糖症 とは？

低血糖症とは血液中のブドウ糖（糖分の一種）が少なくなりすぎた状態で、下のような症状があらわれます。空腹時に起こり、食物を食べると急に良くなるのが特徴です。

- 冷や汗がでる
- 気持ちが悪くなる
- 急に強い空腹感を覚える
- 寒気がする
- 動悸がする
- 手足がふるえる
- 目がちらつく
- ふらつく
- 力の抜けた感じがする
- 頭が痛い
- ろれつが回らない
- 目の前が真っ暗になる
- けいれんを起こす
- 意識を失う



低血糖症 が起きたら

- (1) 軽い低血糖症が起こった場合（意識があるとき）

低血糖症になっても軽いうちは患者さん自らが口で糖分をとることで治ります。そのときは20～30gの糖分をとって下さい。

糖分：ブドウ糖、砂糖、ジュースなど

(2) 意識を失うような強い低血糖症が起こった場合（口から糖分がとれないとき）
家族の方などが次のことを行います。

- ① まず、救急車をよびます。
- ② 4～5ページの手順に従ってグルカゴンを注射します。
- ③ 通常、注射してから20分以内に症状が回復します。もし回復しない場合は、すぐに救急車で病院へ運んで下さい。
このようなときには、グルカゴンを2度注射しても効果はありません。
- ④ 回復したら必ず20～30gの糖分をとらせるかあるいは食事をさせて下さい。
- ⑤ 低血糖症を起こしたことを必ず主治医に報告して下さい。

(注意)

アルコールを飲んでいて低血糖症を起こした場合、グルカゴンを注射しても効果がないので注意して下さい。



注射のしかた

■注射の準備



- ① 手指を石鹼でよく洗い、バイアル瓶のゴム栓をアルコール綿で消毒します。



- ② 溶解液をディスポ注射器にとります。



- ③ 溶解液をグルカゴンの入ったバイアルに全量加え、静かに振ってとかします。



- ④ バイアルを逆さまにし、液を注射器にとります。

■注射の手順



- ① 注射する部分（上腕、太腿、おしり）をアルコール綿で消毒します。



- ② 親指と人差し指を使って注射する部分の皮膚をつまみます。



- ③ その部分に注射針を垂直に刺し、薬液をゆっくり注入します。



- ④ 針を抜き、アルコール綿で注射した部分を押さえ、軽くマッサージします。

グルカゴンの 保存方法

- (1) 冷蔵庫内に食物などとは区別して包装箱に入れたまま清潔にして保存して下さい。しかし凍らせてはいけません（フリーザーの中には絶対に入れないで下さい）。
- (2) 外出などの際、短期間であれば冷蔵庫から出してもさしつかえありませんが、なるべく涼しいところに保管してください。直射日光のあたるところ、自動車内などの高温になる恐れのあるところには置かないようにして下さい。
- (3) グルカゴンは溶解後、すぐに使用して下さい。
- (4) 外箱に表示してある使用期限を過ぎたグルカゴンは使用しないで下さい。

■ 発 売 元 **カイゲンファーマ株式会社** ■
製造販売元 **ILS株式会社**